

令和4年度 第2回 精華町高齢者保健福祉審議会

日時：令和4年12月23日（金）13：30～15：00

場所：精華町役場 501・502 会議室

1. 開会

2. 委員紹介

- ・1人の委員の変更と新委員の自己紹介
- ・委員19人のうち出席委員12人により、審議会が成立することについて事務局より報告

3. 議事

(1)「精華町第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険計画に係るアンケート調査」について

- ・事務局より、資料1「第9期介護保険次号計画の作成プロセスと支援ツールイメージ」、資料2「計画策定に係る調査の概要」の説明

(質疑応答)

檀上委員：資料3の要介護1から5以外ということは、要支援の方も含むという意味か。

事務局：そうです。

岡田委員：介護サービス事業所調査は、前回13事業所だったが、今回はもう少し増えているのか。2点目は地域団体等の活動に関するアンケートで、前回シルバー人材センターと老人クラブ連合会にアンケートをしたが、それだけか。3点目は介護予防日常生活支援総合事業として住民主体の事業をやっていて、高齢者の生活に関するアンケートを見ると、幾つかの住民の居場所づくりなどの活動がある。今また要介護度の低い人を外す動きもある中で、人材不足等の課題を抱えながらも精華町は居場所づくりができています。その中で、利用する住民への質問はあったが、実際に居場所づくりで活動している方へのニーズ調査もする必要があるのではないか。

事務局：まず1点目の事業者の調査数については、町内にある法人及び事業所に調査する予定で、前回よりも訪問看護や施設、事業所は増えているので調査件数は増えると思う。法人単位になるので、幾つかの事業所を持つ法人は、法人として1カ所調査する予定である。2点目の地域団体等の活動に関するアンケートはご指摘のとおり、前はシルバーと老人クラブの2つのみだったが、やはりそのほかの高齢福祉の地域活動団体の課題も把握する必要があると考えている。NPO法人やそれ以外にも高齢者の福祉に関する地域活動団体については実施する予定である。

北崎委員：資料2、アンケートの設問に記載の部分で、「必」と書いているのは国が示す必須項目ということだが、オプションは国が指定している設問の中でオプションを加えたということなのか、町独自で設問を追加したのか。というのは、調査目的によっては設問内容を変更してもいい部分と続けたほうがいい場合もあるので、その意味合いについて教えてほしい。

事務局：必須項目及びオプションについては、国がアンケートの設問及び回答の内容を示しているもので、町独自のものが事務局で考えた設定項目である。国が示しているオプション項目は、一部内容によっては聞き方を変更することが可能な設問もあるようなので、も

し修正等があればお聞きして、問題のない変更ならば多少の変更は可能だと聞いている。ただ、変更が難しいものもあるので、そこはご意見を踏まえて検討する。

・事務局より、資料3「高齢者の生活に関するアンケート」の説明

(質疑応答)

鈴木委員：13 ページ8 番の③かかりつけの薬剤師とはどういう意味か。

事務局：医師や歯科医師と併せて、近年かかりつけの薬剤師という考え方が出てきている。かかりつけ医などに比べ認知度は低いかもしれないが、今後在宅医療などの医療連携を進めていく中でどの程度周知できているのかを把握し、その状況に応じて対策を講じていく必要があるので、ここの設問に入れてある。

鈴木委員：私自身がこのアンケートをした場合、①と②は選べるが③はわからない。

会長：問い方が「かかりつけの医師がありますか」で、選択肢に薬剤師も入っているのはわかりにくい。私もいつも行く薬局にかかりつけの薬剤師がいるが、地域で身近に相談できる場所を増やそうということで、薬局や薬剤師の役割は非常に大事になる。質問の仕方がわかりにくいので、少し工夫してほしい。

北崎委員：私は自分が勝手にかかりつけ医だと決めている。医師のほうがあなたは私のかかりつけではないと言われているかもしれないとは思っている。自分は信頼してかかりつけ医と思っているが、その辺をこの8 で説明してもらえれば安心して記入できる。先ほどの薬剤師のかかりつけも難しい選択だと思うので、この設問の聞き方をもう少し工夫したほうがいいのではないかと。うまく説明しないと、出た答えがあいまいな形で実態を反映したものにならない結果にもなりかねないので、その辺の説明を明確にはっきりと書いたほうがよい。

事務局：設問の方法、説明については検討する。

北崎委員：これを読んで感じたことは、まず4 ページの運動に関する設問の5 番目、転倒に関する設問の選択肢2 と3 が全く同じ。なぜこんなことになるのか。全体的には、実態を反映したい設問では、二者択一というのはあまり設定しないことが多く、3 項目か4 項目ないと明らかになりにくい特性がある。これを見ると、イエスかノーかのものが多い。しかし、これらは必須になっているので、国のアンケートでやるのかと疑問に思う。問3 の食べることについてはイエスかノーかの質問ばかりなので、イエスともノーとも言えない部分をどういうふうに調査するかということだと思う。

11 ページ、9 期新の質問9 と10 はわかりにくい。9 「家族以外の地域の人に頼られることに抵抗はありますか。」の選択肢4 「歓迎する(頼られた)」に対し、10 「反対に家族以外の地域の人に頼ることに抵抗はありますか。」の選択肢4 にまた「歓迎する(頼りたい)」というのがあるが、この答えの意味合いが理解しにくい。私は答えにくかったので、もう一度回答のほうを検討されたらどうか。「頼られた」「頼りたい」、受け身なのか積極的に言っているのかをもう少しはっきりと書いたほうがよいと思う。

デジタル化に関する項目でSNS という言葉が出ていたが、一般の方にはSNS という言葉はなかなか理解しにくいのではないかと。今、地域の方、高齢者はLINE は使うようになったので、「メールやLINE」という言葉のほうがわかりやすいのではないかと。

事務局：最初の「はい」「いいえ」の回答のところは、全体をそれぞれ確認して検討する。併せて、特に食べることに関する「はい」「いいえ」の設問は、基本チェックリストという、フレ

イル傾向を把握したり、介護保険の要支援などの認定はされないけれども住民主体の通いの場や総合事業の一部サービスを使う際にチェックするものがあり、その設問と全く同じものになっている。同じ質問をすることで、フレイル状況を基本チェックリストも含めて把握するために使う関係もあって、そこについては「はい」「いいえ」の設問のほうがいい場合もある。ほかの設問についても細かいところを見て、改めて追加の必要があるものについては検討していく。

11 ページの 9 と 10 については、高齢者が核家族化や独居で地域との関係性を把握するために新たに設置した項目だが、指摘された内容を踏まえて回答の内容を再度検討する。

8 ページ 19 番の SNS については、表記について、特定のアプリの名称を使うべきかどうかも含めて検討する。

会 長：9 と 10 の問いについては、私も同感で、もう少しわかりやすくしてほしい。SNS の表記については、注釈をつけてもいいかと思う。

岡田委員：問 1 で家族構成を聞くところがあるが、私の場合は独身の娘と 2 人暮らしなので答えが 4 になるのか、5 になるのかわかりにくかった。4 の「2 世帯」と言われると違うような感じがして 5 の「その他」と迷った。答えにくいと感じたのは 8、9 ページの地域での活動についてで、もっと簡単に選べる、答えやすいような聞き方はないかと思った。

北崎委員：私も同感だ。9 ページの問 2、3 については非常に書きにくかった内容だ。「地域の住民の有志によって」などの言い方が難しく感じる。質問するとしたら、「趣味、活動などに参加したいと思いませんか。」でも十分住民の意思は把握できるのではないか。3 については「その活動の運営やお手伝いをしたいと思いませんか。」という簡単な言葉で書いたほうがいいのかと思う。非常に回答するときに悩む内容だと思う。

事務局：まず問 1 の家族構成については必須項目で、国に指定された設問になっている。これでもどこまで変更ができるのか、もしくはできないのかを確認する。変更した場合、全国比較のためのデータ入力に入力できないという問題生じるので、そこでの整合性もとりながら、もし変更が可能なら修正等を踏まえて考えていく。

8 ページ問 5 の 1、2、3 は基本的に必須項目になっている。設問の聞き方も含めて変更できるものは検討して、国の指定で実施する必要があるればこのままいくこともあるので、ご理解いただきたい。問 1 については必須項目と併せて町独自項目を入れているので、ご指摘のように少し回答しにくいという課題は話し合った。ただ、同じ設問にした理由は、令和 3 年度に介護保険の関連で千葉大学と研究協定を結び、介護保険のアンケート上から見える様々な課題を抽出するという取り組みに経緯があり、その中で特に地域の通いの場が注目されていて重点的に取り組むということで全国的にも動いているので、そこを変更することで調査できる深みが変わってくる場合もあるかと思う、同じ設問にしてある。研究協定を引き続き実施していくことも検討していて、そうなった場合は大学側と調整した上で検討していく。

会 長：この設問は前回も答えにくいという意見があったので、おそらく全国的にそういう意見があると思う。今回の調査で国の必須項目となれば精華町が勝手にやることは難しいが、そういう声があったというフィードバックは大切だと思う。

家族構成の選択肢はきりがないので、その他のところに括弧をつけて記入してもらうようにアレンジできるとよいのではないかと。

・事務局より、資料 4 「在宅介護実態調査」の説明
(質疑応答)

岡田委員：2ページ問10「問10で1～4と回答した方におうかがいします。」というのは「問9」の間違いではないか。

事務局：ご指摘のとおりで、修正する。

北崎委員：4ページ問15で「ご本人（調査対象者）施設での介護」とあるのは「が」が抜けている。7ページの「9ページB票に進んでください」は8ページではないか。

個人情報の取り扱いについては厳しく言及されていて、「これに同意されない方は、ご返送いただかなくて結構です。」と書かれているが、要介護1から5に認定されている人が対象なのでこれぐらい明確に書いておかなければならないという意味なのか。資料3の生活に関するアンケートについては「調査目的以外に使用することはございません。」というだけだが、要介護認定を受けている人が調査対象なのでここまで書く必要があったということか。

事務局：再度、全体的に誤字脱字、誤植については確認し、修正する。個人情報の部分の表記の方法については、確認、検討することと併せて、個人情報保護の関係部署と調整をとり、どの程度のレベルの記載が必要かを検討する。

会長：個人情報については、私も少し冷たい感じを受ける。同意は必要だが、優しい書き方に工夫していただきたい。

・事務局より、資料5「介護サービス事業所調査」の説明

(質疑応答)

齊藤(裕)委員：特に書きにくい部分はないと思う。入所施設ということは、特別養護老人ホームや老人保健施設になるのか。グループホームは含まれるのか。

事務局：このアンケートは法人単位でとるので、法人に1つで、全体の事業所を踏まえて回答いただきたい。

齊藤(裕)委員：入所サービスと書くと、介護保健施設という理解でいいと思うが、複数になると書きにくいと思う。4、5ページは特に書きにくいことはない。地域密着型についても同様である。気になるのは総合事業のことで、例えば訪問介護は精華町ではうちともう1カ所で、かなり利用料が下がったことでサービス提供事業者が減っている状況にある。正直うちも総合事業は厳しいところがあるので、その辺の調査はしてもらいたい。問10介護予防サービスというのは、基本的にはいわゆる予防給付に該当するサービスということか。例えば地域でやっている体操教室など、要介護、要支援以外の人たちが参加できる、機能維持の活動をしているが、法人全体で見た場合には、それは外すということか。問15の「医療機関とどのような連携をとっていますか」は、例えば特養は協力医療機関を定めなければならないので決めているが、サービスの種別によっては明確に決まっていない場合もあるので、どのように答えるのか。職員数というのは介護に関わる職員ということでもいいと思う。具体的な意見があれば自由にということでは助かると思った。

事務局：総合事業については、ご指摘いただいたように課題があるので検討していく。問10については、介護予防サービスという記載になっているので、総合事業を含めての介護予防サービスというふうに広くとらえてはいるが、また改めて検討し、総合事業のところと併せて調整する。複数のサービス事業所があるので答えにくいところがあることについては、修正を踏まえて検討する。

長谷川委員：今問題になっているのは、通所介護では特に免許が要るので、その職員が辞めたりほかに移ったりすることがあり、去年度は35名から30名に定員を減らして、その後新たに

採用して35人に変更しているというような、日々採用人員、資格人員によって違うので運営は厳しい状況にある。特にコロナの関係で休業した日もあり、そのときは収入がないのでマイナスになるが、そういうことが度々起きている。このアンケートの前半は記入できるが、一番重大な社協が当面抱えている問題は、人員が公募してもなかなか来てもらえないことで、来てくれても2、3カ月で辞められたりするので大変な状態になる。法律によって定員が変わるので、その度に届けを出している状況だ。コロナや物価の高騰により配食関係は常に値上げの問題があるので、その辺も最後の自由記載のところに書こうと思っている。

事務局：介護人材の確保やコロナ、物価の高騰については、修正を踏まえて、このアンケートの中でよりその状況がわかるような形に再度検討していく。追加項目を入れるのか、自由記載で進めていくのかも検討していく。

会長：これは精華町独自の調査なので、今の修正をぜひ反映させてもらいたい。例えば11ページの自由記載のスペースは狭いので、自由に書けるようなスペースをつくってもらいたい。

・事務局より、資料6「地域団体等の活動に関するアンケート」の説明

(質疑応答)

浦西委員：見る限りでは当センターの内容にあまり当てはまらないのが、1ページ下の「家にこもりがちな高齢者」のくだりで、書きようがないと思う。裏面の「活動上困っていること」は、当センターも高齢化が進んで会員の数が増えないため、いろいろな依頼があるがなかなかそれを十分にできない状況もあるので、会員を増やすためのことをしており、その辺の悩みを書こうと思う。コロナの支援に関しても、会員やご家庭に仕事に行っても結構接触する機会があるので、できるだけ感染拡大しないような処置をしているが、その内容を書けるような中身があったらいいと思う。最後の今後取り組みたいことについては、人生活躍セミナーで町内の各団体の発表があったが、あのような取り組みをもっと頻繁にやってもらいたいし、発表だけではなくていろいろな取り組みを提案型でやったら面白いのではないか。それに高齢者が参加することでシルバーの「きょういくがある」「きょうようがある」の1つに加えたいと思う。

事務局：今回見て、シルバーと老人会のアンケートからは地域の団体ということで少し記載方法を変えているところもあるので、そこを各団体に共通する項目と修正等いただいた内容を踏まえて再度検討する。

鈴木委員：このアンケートに書きにくいことは、今、老人クラブ連合会は町内に27団体あり、1つは役員になり手がないうなどで休止状態のため、26団体が活動しており、それぞれ26団体がいろいろな活動をしているので、例えば「家に閉じこもりがちな高齢者、要介護状態になるおそれのある高齢者に参加を広く呼びかけて行っていますか」ということをやっている団体も何件か聞いているが、やっているところとやっていないところで非常に温度差があるので、「広く」に具体的に書くのはどうかなと思っている。裏面では、メンバーが高齢化してきて人数が年々減っているので参加を呼びかけても、最近の方はなかなか入ってこない。本当に参加者が少なくなってきて、非常にどこも困っている。これは全国同じ悩みを抱えているのではないか。新型コロナの影響も大きい。

会長：今、全国的にそういう状況にあると思うので、その具体的に悩みや課題を書いてもらうために裏面の自由記載のスペースを広げたりしてほしい。町内の貴重な活動を持続していくためには課題の共有が大切なので、貴重な調査の1つになるだろう。

事務局：ご指摘いただいたいろいろな課題をこちらでも聞く機会はあるので、実際に各団体とも共通した課題を抱えているだろうと推測している。それを把握して、今後必要な支援や協働で事業を進めていくためにこのアンケートを実施したい。今いただいた修正をもう少し膨らませて、設問数を増やすことも含めて再検討する。

齋藤(恵)委員：鈴木委員が言われたように、役員のなり手が非常に少ないということと同時に住民に根づく活動、理解してもらおう努力が足りないように思う。自治会が中心となって動くような形が理想だが、それができていない。子ども会は子ども会、老人会は老人会で動き、老人会が福祉活動をやっているという状況が顕著に出てきているのではないか。それをあまり言うと、自治会長のなり手もなくなってくるが、そこも連携してやっていくという活動が大事だと思っている。高齢者の生活に関するアンケートだが、高齢者にこれだけのボリュームのものが本当に答えられるのかどうか。かなりの労力が要るし、それをサポートしてもらうにしても答えにくいと思うので、そのケアをする体制をつくってこのアンケートを実施するというのを考えてもらいたい。

会長：毎年、この審議会で議論になるのだが、多すぎてもいけないし少なすぎてもいけないということで、調査項目を厳選しながらという取り組みを毎回やっている。ただ、スムーズに回答することが難しい場合のフォローはもちろん要るので、ボリュームのことと併せて調査しやすく、回答しやすくするためのサポートをどうするか、回収率を上げて多くの声を聞くことが何よりなので、そのための仕組みづくりが重要だ。

事務局：自治会との連携、自治会主体でということについては、アンケートの始めのほうに出ているので、そのあたりでどれだけの団体が自治体などと連携しているかを把握して、今後どういった連携のとり方があるかの把握の参考にしたい。課題について、修正等いただいたことが反映できる形で回答を再度確認していく。ボリュームが多いことは認識しており、今回は前回より減らしている項目もある。高齢者の生活に関するアンケートは前回 89 問、今回は 88 問、在宅介護実態調査は前回 35 問で今回も同数の 35 問と設定している。

北崎委員：この種のアンケートで、何が課題かというのは抽出できると思うが、一番大切なのは解決策、解決の道筋について皆さんがどうお考えかということも把握したい。今年度、人生活躍セミナーという形で新しい担い手を確保しようということで町にもいろいろしていただいてありがたかった。その結果、来年から健康づくり介護サポーターになっていただく方の養成講座を引き続き行うことで、現在 33 名の申し込みがあり、こういう研修はきっかけになるとつくづく感じている。ぜひ継続していただきたい。それと、最初の段階で「閉じこもりがちな高齢者、要介護状態になるおそれの・・・」という具体的な話が出てきたので、この点については「要介護状態になるおそれの」というのは完全な進行形の状態である。既に自宅に閉じこもったり、要介護状態になるおそれの方にドアをノックして呼びかける段階というよりは、体操や居場所に参加してきた方が遠ざかる可能性が出てきている。歩いていけないとか、遠いとかで我々は毎日行っている。こういうことは 8 年前に発足して、まさに今その戦いをやっている段階なので、ぜひこの担い手をつくっていかないと、やっている本人が高齢化しているという実態、80 代の方が走り回っている状況なので、ぜひ若い担い手をどうしたら確保できるかということを中心に具体的な方策として頑張っていただきたい。町だけでは難しいだろうが、企業を巻き込んだ取り組みにしないと、リタイアして急に社会貢献しろと言われてもなかなか、特に男性は難しいので、在職中からリタイアに向けてソフトランディングで地域に溶け込んでいけるような制度のようなものを早くつくってほしい。現実には地域に活動できる人はいるが、なかなか飛び込めてない。今回の人生活躍セミナーで、こういうものがあってやっと溶け込めたという方もおられたので、70 代になってリタイアして、スムーズに地域の活動を支える側になれるような体制づくりをしてほしい。町だけでは難しいと思

うが、そういった呼びかけもぜひしていただきたい。このアンケートについてはもう少し具体的な方策などの観点で、項目も少し厚みをもって作ってもいいのではないか。現実問題、我々も非常に厳しい状況に置かれているので、ぜひ具体的な方策を見出せればと思っている。

会 長：人生活躍セミナーのようなきっかけ、地域活動に参加していくという土壌づくり、環境整備といった文化を育てていくことが非常に大事だと思う。調査することが目的ではなく、アンケートの向こう側に私たちがどういった活動をこの精華町で起こしていくのか、住み続けたいまちづくりにつながるものが大切で、どんな精華町をイメージするのか、どういった町で暮らしていきたいのかというところにつながるような計画、町民が新しくつくる計画を見て、ここに住んでよかったと思えるようなところを皆さんと協力しながらやっていけたらと考えている。

事務局：日々の活動の中で熱い思いを持って取り組んでいただいている。人生活躍セミナーの継続という修正をいただいたが、今回このセミナーを開催する中で、各団体と協働した運営をさせてもらった。前はシルバーと老人会のみアンケートだったが、やはりインフォーマルな活動も含めて、団体の課題を踏まえて人生活躍セミナーの充実や各種の事業を提供するに当たって、各委員から様々な修正等をいただいたので、全体的にボリュームを増やして、再度アンケート項目を検討する。

齊藤(裕)委員：今回広くアンケートをとることになって、大変いいことだと思う。ここ数年でいろいろな活動が広がっているように感じる。活動に当たって、連携している団体のところは、住民団体というのはわかるのか。最近では法人格をとっているNPO法人などもあるし、住民団体の定義が難しいのではないかと。役場、社協、町内会とかいろいろ書いてあるが、私としては社会福祉法人や介護事業所を載せてほしい。地域福祉活動も力を入れて、いろいろな団体と連携してやっているのだから、うちに限らず書いてもらいたい。

事務局：今後のスケジュールについては、年明けにアンケートを送付する。それに当たり、皆さんからいただいた修正等について事務局で修正、追加などを行い、会長にご確認いただくということで、会長に一任していただきたい。

会 長：この会議以降も28日まで、もしお気づきの点があれば修正いただきたい。最終的には私が確認して、その内容についても修正等があればご協力をお願いする。

4. 閉会

あいさつ(要旨)

副会長：今日は寒い中、長時間ありがとうございました。建設的な意見が多々出ておりますので、事務局にまとめていただきたいと思います。質問自体がとて多いので、記入するのに1日、2日ではできないのではないかと考えているので、「質問があればお電話ください」とか、もう少し丁寧な案内文にしてもらいたいのではないかと考えています。あるいは、どうしてもわからなければ自宅へ出向いて説明するとか、いろいろな方法があると思いますので、事務局で十分検討してもらいたいと思います。

コロナもありますので、皆さんも体には十分気をつけてもらって、行動制限がない正月ですが、行動には十分気をつけてもらいたいと思います。長時間どうもありがとうございました。

事務局：今年度の審議会は本日が最終となります。来年度は5回の審議会を予定しております。大まかな日程については今回資料で示しておりますが、また日程については送付させていただきますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

